

[担当教員]

楳橋修（准教授）高麗憲志（技術職員）

[Teaching Assistant]

大崎真幸（A65）、小林諒（A65）、中川栞里（A65）

開講年次：学部1回生 第3クオーター

建築をデザインする上で必要となる基礎的な造形力を獲得することを目的とし、立体造形制作を通じて、構成力や造形力を習得するとともに、形態や色彩感覚、素材の質感、スケール感覚、平面と立体との関係などの空間造形感覚をそれらを表現する能力を養う。

実習は3グループに分かれて行い、各回テーマを持って実習に取り組む。中間講評を挟んで大きく2つの課題制作を行い、スタディーからプレゼンテーションまでのスキルを身につける。



### ■課題概要

設計の基礎を学ぶ初学者に分かりやすいように講義と実習を適宜取り混ぜながら行う。課題は中間講評を挟んで前半(実習7コマ)と後半(実習5コマ)から構成する。前半では段階を踏んで模型製作とスタディーのプロセスを学び、後半では前半のスタディーを踏まえ、より自由な建築表現の方法を学ぶ。

パート1 (3限)	パート2 (4限)
1-1 ガイダンス	1-2 座席指定、道具の使い方
2-1 箱を作る	2-2 穴をあける
3-1 スケールと配置を考える	3-2 光の空間を考える
4-1 空間を表す1 (プレゼン)	4-2 提出1 (A2サイズ)
5-1 中間講評と後半課題説明	5-2 再び箱を作る
6-1 光の効果と空間体験	6-2 マテリアルを考える
7-1 空間を表す2 (プレゼン)	7-2 提出2 (A2サイズ)
8-1 講評会	

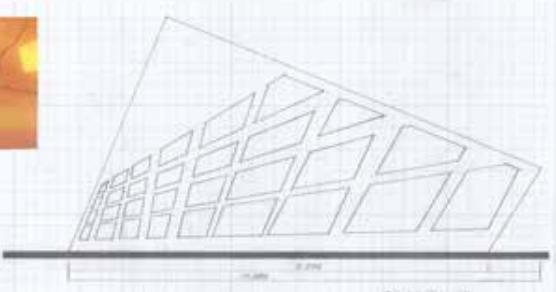
柴田貴美子「空間を表す2」

**かえりみち。**

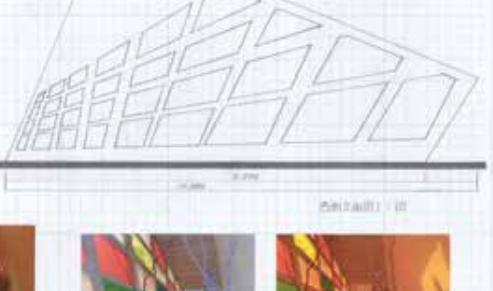
コンセプト  
歩く道としての「かえりみち」は、懐かず迷ったくなるような  
温かい光と色で作る空間を目指します。  
均等で歩きやすい道を中心とした構成で  
歩く楽しさを追求。  
また、高齢者を想って実験的に歩くやすさを  
空間を工夫してます。



①内装空間  
内側を上にして外側を下にして、西側を  
正面にして、東側を背面にして、北側を左側  
として、南側を右側として配置する。  
また、内装空間は、西側のカーテンから、西側の  
外装空間へとつながる。

②内装空間  
内装空間は、西側のカーテンから、西側の  
外装空間へとつながる。  
また、外装空間は、西側のカーテンから、西側の  
内装空間へとつながる。

③空調上昇  
温度調節にあたっては、内装を離れて低い位置で  
風を吹きだす。これもまた、迷路をモチーフとして  
走る風の方向を変えてあてることであります。




柴田 貴美子

## 設計基礎 A

14

### 特別演習『夢見る空間をつくろう。自分だけの。』

開講年次：学部1回生 第3クオーター

[担当教員]

大谷弘明（神戸大学客員教授／日建設計執行役員）

遠藤秀平（教授）、榎橋修（准教授）

[準備補助]

高麗憲志（技術職員）

高校教育では造形や空間を考えるような授業はないが、皆さんは小さい頃からものづくりが得意だったんだろうし、3Dゲームとともに育ったかもしれない。いまや建築学科に公式に入学された皆さんは空間や建築に直に向き合うことができる。

この課題では白いケント紙を使うだけでも実際にいろいろなものが出来上がることを見たと思う。オブジェとみえるもの、ドールハウス的な設えになったもの、そして空間という可能性を内包した作品まで、実にバラエティ豊かなものができた。

無心の子供の絵がうまいと思ってしまうのと同様、皆さんが今回つくった立体にまだ見ぬ建築への芽が発見できた。「建築」のかたちは頭の中の思考から出てくるとは限らない。多くの場合、手を動かし続け、形にならない状態を積み重ねる中から生まれてくる。この原体験を通じて、自分が秘めている可能性を再発見してほしい。ここでの体験を胸にこれからたくさんの模型を自ら製作して考える癖をつけてほしい。

（大谷弘明）



学生作品



学生講評

#### ■ 演習課題

みなさんが神戸大学工学部建築学科に入学されたこと、まことに喜ばしく思います。

これからは、いよいよ建築の専門教育を学ぶことができます。

みなさんは日頃、建物をどんなふうに見てていますか。

建築とは見るだけのものではなく、空間の「体験」です。みなさんの前には驚くべき未知の建築空間体験が待ちかまえているはずです。

きょうはみなさんと、建築をつくるとはどういうことなのか、一緒に考えたいと思います。

考えると言っても頭で考えるのではありません。手を使って頭を動かしながら考えましょう。

建築とはこれらの思考の結果です。建築とはオブジェではありません。人間を取り巻くすべてが建築といつても過言ではありません。

#### 『夢見る空間をつくろう。自分だけの。』

頭の中にあるいろんな空間イメージをもとに実際の立体造形にしてみましょう。

夢に見るような空間、体験してみたい場所、これは人間にかかる建築テーマです。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比べ、感じて、批評しあう、これらのプロセスが大切です。

これらの活動すべてが建築的な「体験」の事始めになります。もしくは「原体験」となります。

オリジナリティあふれる独創的な自分だけの形をつくってみましょう。

・日時 10月6日（金）3、4限（13:20～16:40）

・場所 鶴甲第一キャンパスK棟K401

・時間配分 事前の説明 13:20～13:30

製作時間 13:30～16:00

講評 16:00～16:40

#### ・材料

目の前に用意されているケント紙と、各自が用意した定規、はさみ、テープ、ホッチキスをつかいます。

製作のスケールは自由です。人型の切り抜きをひとつつくり、自分のつくった造形の中に配置しましょう。中を覗いて見る（疑似体験できる）ようにしましょう。あとでスマホを使って空間の撮影もしましょう。